



夢☆きらめいて

No.
15

加東市教育委員会/加東市人権・同和教育研究協議会 平成25年3月1日



福田幼稚園の公開授業

『異年齢、未就学児との交流をとおして、思いやりの心を育む

～はあのこころをみつけた！～』

目 次

● 市同教の活動	2 · 3	● 人権エッセイ・講演会	7
● 学校教育部会・企業人権	4	● 人権啓発作品	8~11
● 人権を考える市民のつどい	5	● 中学生の人権作文	12~15
● 市民人権講座修了者	6	● 新着ビデオ・図書、相談窓口	16

明るい元気な子どもたち
加東市教育委員会 藤本洋二

加東市の子どもたちは、先生・家庭・地域の方たちに支えられ、有意義な学校生活を送っているのを実感します。子どもたちにとって楽しい学校であり続けてほしい願うところです。

多くの保護者や先生方に、被害者がから身を守るために、法などを使っています。ケータイやパソコンをはじめ、ネットに接するポータブルゲーム機、スマートフォン、タブレットなどについても、わかりやすく注意を喚起しています。「必要なないことはネット上でつぶやかない、書き込まないことに尽きる」とのこと

等による誹謗中傷やソーシャルメディアによる問題化などが、社会問題として現れています。このような状況の下、加東市においては、すべての学校で「ネット犯罪」から子どもたちを守るために、守り隊特別監視員の篠原嘉さん(子どもたちだけではなく、兵庫県情報セキュリティサポートセンター)で、加東市ネット見守り隊特別監視員の篠原嘉さん(子どもたちだけでなく、被害者や先生方にもネット等による誹謗中傷やソーシャルメディアによる問題化などが、社会問題として現れています。このようにして、各学年とも、先生方に、被害者がから身を守るために、法などを使っています。ケータイやパソコンをはじめ、ネットに接するポータブルゲーム機、スマートフォン、タブレットなどについても、わかりやすく注意を喚起しています。「必要なないことはネット上でつぶやかない、書き込まないことに尽きる」とのこと

高めよう人権意識、広げよう交流の輪

加東市人権・同和教育研究協議会

地区住民学習から

住民学習の実施状況

(25年1月末現在)

本年は「同和問題の解決」を課題とした学習会の開催「三ヵ年計画」の初年度に当たり、講師招聘や資料提示による学習会の開催が報告されました。

参加者の増加をめざして地区の総会やバス旅行等人の集まる機会をうまく活用して、人権ビデオを視聴してもらうなど、よく工夫された取組が見られましたが、参加者は減少傾向にあります。

参加者は減少傾向にあります。

『主な感想』(抜粋)

●ビデオはハッピー・エンドで終了しているが、仲直りや間柄はどうなったのだろう。一人ひとりが地域社会を担う一員であることを自覚して、助け合い、支え合いで、親が人の悪口を言うことについて考えたい。

●親が人の悪口を言うことで、子供が偏見を持った人間に育っていく事がある。さらに、昨年に続き、年を工夫した地区もあります。

①「桃香の自由帳」を視聴して



71地区で、延べ約2427人がビデオを視聴して、感想を話し合ったり、意見交換したりして学習が行われました。

●現代はいろいろ怖い事件があるのも事実。どこまで近所の方と交わればいいのか難しい。

●桃香のような優しさが大人になるとどうしてなくなってしまうのだろう。自分の生活がやつとなので、他人にまで気が回らない。

●大人はどうしても噂話やただ一度の怖い体験だけで判断してしまいがち。また、それを自分の子どもに強要してしまう。

●親が子に他人のことを話すときには、正しい情報を伝える必要がある。「子は親を見て育つ」「親を見て育つ」「子は親の鏡」「親の悪い偏見が子に伝わる」をいつも教訓として。

●人に迷惑をかけない、またかけられないようにするため、表面上の付き合いになりがちで、周りへの関心も薄い。自分のいる地域へ目を向けて、互いに知り合い信頼関係を作つていただきたい。

②他のビデオを視聴して

10地区で、延べ224人が「今、地域社会と職場の人権は」「人権のヒント」「地域編」「毎日かあさん」「心のケアと人権—家庭編」「いま部落を語る若者たち」「同和問題と人権」「いわたくんちのおばあちゃん」「小さなキャラバン」などを視聴して学習されました。

子は親の背中を見て育つので、言動には気をつけたい。
●一人住まいの高齢者を見守り、声をかけていくことが必要になつてくる。

高齢化を安心あるものにするため、行き過ぎた個人主義や経済効率優先の風潮に歯止めをかけるとともに、人や地域のつながり、きずなの再生を図り互助や支え合いの社会を作る視点が求められる。

●今後本格化していく少子高齢化を安心あるものにするため、行き過ぎた個人主義や経済効率優先の風潮に歯止めをかけるとともに、人や地域のつながり、きずなの再生を図り互助や支え合いの社会を作る視点が求められる。

●ドラマにあつたサロン「のじぎく」のような集える場所がこれからもつと必要ななつていくと思う。
●今後本格化していく少子高齢化を安心あるものにするため、行き過ぎた個人主義や経済効率優先の風潮に歯止めをかけるとともに、人や地域のつながり、きずなの再生を図り互助や支え合いの社会を作る視点が求められる。

●老人がりんごやみかんを袋からこぼし、桃香が拾うシーンがあつたが、ある調査によると、他の国に比べ日本人はこのような場面では拾う人が圧倒的に多いそうだ。
●ほのぼのと心温かくなり、最後は気分が晴れやかに…。
●今まで、人の言うことを鵜呑みにして信じてしまつていた事が間々あつたなあ。
●松子先生がお見舞いに行つたときの「昔の話」がキーポイント。また、志穂ちゃんの「赤ちゃんが見ていい」との言葉が人を変えた。
●「知らない人から声をかけられても返事をしないよう」と親が言う。しかし、顔見知りにならなければ地域の人であつても他人になつてしまう。

●人に迷惑をかけない、またかけられないようにするため、表面上の付き合いになりがちで、周りへの関心も薄い。自分のいる地域へ目を向けて、互いに知り合い信頼関係を作つていただきたい。

③講演会等

講師を招いての講演会が14地区（689名）で実施されました。

演題は、「人権を意識した地域づくり」「同和問題のこれから」「なぜ、いま同和問題か」という人権そのものに関わる内容から、地域のニーズに応じた「防犯について」「生きるとは」「自分が好き人が好き」「幸せになりたい人の生き方」など様々な内容です。

郷土の歴史（神社や伝承・伝記）

を学ぶことを通して、文化を次世代につないでいこうとする目標をもたれた地域の学習成果も特徴的でした。

した。

このほか、パネルを展示して人権についてグループ討議をする地区もありました。

△主な講師

亀田隆光さん、内藤晴樹さん、堀井洋一さん、尾城文雄さん、大東太郎さん、加島ゆう子さん、田中賢治さん、小林伶子さん、船越哲也さん、井上茂さん（順不同）



ラジオ体操【大畠地区】



初午相撲【大畠地区】



音楽会【福吉地区】

ふれあい活動

各地区で、住みよいまちづくりをめざして、人権尊重の理念にもとづいた様々なふれあい活動が実施されました。

とりわけ、各地区で普段接することの少ない三世代の人々が交流し合う場が数多く設定され、高齢者は元気と教える喜びを、

子どもは知恵と尊敬の念を抱きあうことができ、明るく豊かな人間関係が築かれたのではないか。子どもは知恵と尊敬の念を抱きあうことができ、明るく豊かな人間関係が築かれたのではないか。



人権ミニ講座【新町地区】



人権看板づくり【新町地区】



交流盆踊り【薮地区】

- スポーツ活動
バレーボール、グラウンドゴルフ、ボーリングなど
- 伝統行事の継承、祭り
文化活動（カラオケ、料理、楽器の生演奏奏等）
- ふれあいの集い
注連縄づくり、とんど
- 昔の遊び、餅つき
池浚えと雑魚とり
- その他
・ ふれあいバスツアー
・ ふれあいサロン
・ 人権パネルの展示
・ 沿道の花壇作り
・ クリーンキャンペーン
・ サツマイモ、稻の栽培と収穫祭、レンゲ祭り
・ 隣接地区との交流
・ ハイキング・登山
・ 交流盆踊り

△主な実践活動

● スポーツ活動
バレーボール、グラウンドゴルフ、ボーリングなど

● 伝統行事の継承、祭り
文化活動（カラオケ、料理、楽器の生演奏奏等）

● ふれあいの集い
注連縄づくり、とんど

● 昔の遊び、餅つき
池浚えと雑魚とり

● その他
・ ふれあいバスツアー
・ ふれあいサロン
・ 人権パネルの展示
・ 沿道の花壇作り
・ クリーンキャンペーン
・ サツマイモ、稻の栽培と収穫祭、レンゲ祭り
・ 隣接地区との交流
・ ハイキング・登山
・ 交流盆踊り



餅つき会【社4区】



グラウンドゴルフ【下久米地区】

住民学習の成果発表

福吉、新町、大畠の三地区より本年度の取組が発表されました。詳しいことはP5に掲載しています。

来年度の参考にしていただることで

啓発紙の発行

啓発紙「○○だより」を発刊し、全戸に配布して人権意識の高揚を図った地域もありました。

日時 平成25年2月9日(土)
場所 滝野文化会館

学校教育部会から

公開授業



11月5日



2月6日

附属中学校公開授業

第1学年

指導者 戸出彰男教諭

題材 「ちがいのちがい」

ねらい 「あってもよいちがい」について考えることを

い」「あつてはならないちがい」「あつてもよいちがい」について考えることを通じて、決めつけや偏見の不當性に気付き、望ましい人間関係の在り方を考えさせます。

後の研究協議を通して人権課題の解決に迫る授業改造に努めています。また、公開授業の幼稚園・小学校や中学校・高等学校の取組を加東市人権・同和教育研究実践記録集に掲載しています。

福田幼稚園公開授業

つさぎ組

●指導者 丸山久美子教諭

●テーマ 「異年齢、未就学児との交流をとおして、思いやりの心を育む」

ふだんの生活の中で何気なく見過ごしている差別に對して、疑問を投げかけていくきっかけとなるよう、当たり前と感じていることの中でも、身近な所に人権にかかわる問題が多く存在していることに気づかせます。



私たち企人協は、加東市同教、人権擁護委員の方々と大阪府堺市にある「舳松人権歴史館」と大阪府岸和田市の人権歴史館と大阪府岸和田市の「岸和田だんじり会館」へ合同視察研修に出かけました。

加東市企業人権 教育協議会の活動

管外研修（11月13日）

「舳松水平社の地」を訪問

舳松村出身の泉野利喜蔵

は、差別の不合理から立ち

上がり、西光万吉、阪本清一郎等の同志と出会い多く

の苦難を乗り越え全国水平

社を創立した一人です。差

別意識が強かつた大正時代、

舳松村は部落解放運動の中

心地であり、差別と闘い続

ける舳松村で多くの青年活

動家を育て上げ、人々を支

えたこと等が多くの資料、

ガイドの説明から学び取る

ことができました。

館内ガイドの方からは、

今日学んでいただいたこと

をそれぞれの職場・地域に

持ち帰り、正しい知識を持

つていただきよくに伝えて

くださいと強くお願ひされ

ました。

岸和田だんじり会館では、

展示された現物の「だんじ

り」の大きさや華やかさ、

非常に精緻な彫刻等を身近

で見ることができ感動しま

した。また、「だんじり」

が五〇〇人余りで曳航され

地元の町を疾走する映像を

見たときは、すごい迫力で

地響きが耳を劈き、あまり

のすごさに圧倒されました。

さらに実地体験コーナーで

乗つたり太鼓をたたいたり

することで祭りの臨場感を

味わうことができました。



舳松人権歴史館では、館内ガイドの方より館内・フィールドワークにおいて資料・施設を見学しながら丁寧な案内や詳しい解説を受けて、部落差別への関心を増すとともに往時の人々の生

ぜることができました。

人権を考える市民のつどい

2月9日（土）、滝野文化会館で、「人権を考える市民のつどい 2013」が開催されました。

開会行事に続き、第一部の中学生による人権弁論では、市内4中学校の生徒に自分の経験を通してそれを思ひが込められた作文を朗読していただきました。（P12～P15に掲載しています。）

続いて第二部として、市内の3地区から創意工夫を凝らした住民学習の報告が行われました。

最後は、「ふれあいコンサート」として、市内在住で演奏活動に活躍の山本英恵さんにお越しいただきました。青年海外協力隊として派遣された中米パナマでの活動や住民の生活、人権状況に胸打たれ、美しいヴィオラの音色に思わず心揺さぶられる「コンサートでした。

第2部

住民学習実践発表

【福吉地区 実践報告】

（発表者 小林健児さん）

- ①講師招聘による人権・同和講演会・・・「幸せになりたい人の生き方」
- ②三世代交流・・・万灯会

【新町地区 実践報告】

（発表者 大西高久さん）

- ①地元講師を生かした学習会の開催
- ③いきいきサロン（「歴史を考えよう」）

【大畑地区 実践報告】

（発表者 阿江善春さん）

- ②五色百人一首夏休み教室
- ②住民の所属意識高揚
- ③人権啓発看板の制作、人権標語の募集と「人権の木」制作と展示
- ④いきいきサロンでの「人はたらきと人権」



（田中賢治さん）
（阿江善春さん）
（郷土史家 船越哲也さん）

ラウンドゴルフ、音楽会 権ミニ講座」の開設 腹話術を交えた講話

（井上茂さん）

- ①パナマでの活動報告の間にもなじみの「見上げてごらん 夜の星を」をはじめ3曲をヴィオラの生演奏で聞かせていただき、心搖さぶられ琴線に触れる音色でした。
- ②パナマでの貧しさ、孤立して笑わなくなってしまった先住民が音楽（リコーダー）に没入するとき、先ずは子どもたちに笑顔が戻り、大人たちが近寄ってくると、いう変容に音楽の持つ魅力、魔力を再認識させられました。

第3部

ふれあいコンサート

—ひびけ弦楽の魅力、とぞけ心の叫び—

（ヴィオラ演奏家 山本英恵さん）

- パナマでの青年海外協力隊活動より
・パナマってどんなところ？
・多民族国家での民族性の違いと生活信条について
・音楽を通した心のつながり
- ヴィオラの独奏
・音楽を通じて世界をつなぐ
・音楽を通じて心をつなぐ
・音楽を通じて命をつなぐ

と感じてはいけない。自分たちの歴史を受け入れ、力一杯生きている逞しさを理解、人権の根本であることを示してくださいました。最後は「ふるさと」のヴィオラ演奏で締めくくられ、ハートにしみわたるコンサートとなりました。



第 6 期加東市民人権講座修了者名簿

第 6 期加東市民人権講座を 3 回（2 回と補講を含む）受講し、修了書を交付された皆さんです。
様々な人権課題について学習していただきました。学んでいただいたことを地域やご家庭で実践していただきますようお願いいたします。

【社一区】	三木政士	降幡輝昭	上月文雄	西山正則	【やしろ台】	名和克己		
【社二区】	板谷勝彦				【上鴨川】	中谷 博	小藪義正	
【社四区】	久下佐津夫	加古純人	福岡博嗣		【下鴨川】	西嶋史昌		
【社五区】	松井 敏	藤原信昭	稻岡幸一		【平木】	松本良広	吉田善彦	
【藤田南】	坂本尚人				【光明寺】	野瀬崇史	芹生一二	
【ひろのが丘】	佐々木正利				【上滝野】	山田千秋	石古ひろみ	澤野茂登子
【山 国】	宮野耕一	岡井牧子	山田美智子		【下滝野】	松岡勝也	高見安男	阿江孝仁 黒崎 明
	田中和子	堀井 操	田中美鈴			長谷川正子	小坂智子	
【松 尾】	藤本秀樹				【新町】	野末昌幸	宮崎 登	
【出 水】	大橋一久				【北野】	品川成治	梶原啓子	松本明美
【田 中】	藤井 勉	大橋泰治				松本三津子		
【鳥 居】	上月 明				【穂 積】	末廣利英	神戸浩夫	
【貝 原】	藤本ひとみ	吉田義信			【稻 尾】	大熊重秀		
【野 村】	高橋敬介	宮崎敏一	壺井隆之		【曾 我】	山本利恵	杉山和史	
【窪 田】	神崎 寛	西田徹夫	藤本秀範	小東正人	【多 井 田】	藤本 明	土江房子	西山芳博 土江喜代次
【家 原】	山本貴彦	酒井直子	山本和子	林山裕江	【河 高】	小林喜代治	藤井秀則	大久保 武 藤井三平
【上 中】	亀野一義	亀野左知子	島津懿幸			丸山忠臣		
	島津美保	神戸孝則			【高 岡】	岡崎年晴	藤川美博	深田節子 菅野克之
【梶 原】	大橋正春	宮田岩生	八十原茂樹		【天 神】	橋本八重乃	中村栄子	日置和子
【喜 田】	岸本善道	井上 實			【掎鹿谷】	小原蒼溪	松本弘之	
【沢 部】	友藤敏彦	井上勝博			【黒 谷】	鷹尾あけみ	尾崎高弘	
【福 吉】	玉井義明	玉井新一			【古 家】	池本弘子	小池良介	
【上 田】	石井啓介	時本かおり	黒田裕見子		【常 田】	松尾 幸		
【大 門】	富田直子				【少分谷】	衣川かおり		
【西古瀬】	井上 満	井上順美	小林典子		【秋津台】	笹川隆秀	笹川眞理子	
【東古瀬】	小紫天地	内藤 諭	藤本綾子		【西 戸】	南 一成	藤原智子	
【屋 度】	近藤佐友里	稻垣 智			【長 井】	谷 真樹		
【東 実】	小林由紀子	山口康世			【長 谷】	東嶋隆博		
【 畑 】	小紫富貴子				【永福台】	石坪信子		
【廻 游】	鷹尾利夫				【横 谷】	梶本芳昭		
【上久米】	西山博紀	横田義昭			【森 】	二位和秀	石田浩一	
【下久米】	蓑田孝広	河村良一	山本智章		【岡 本】	藤井俊貴	溝端早苗	
【久 米】	安田洋一郎	安田正記	前田憲良		【岩 屋】	畠瀬典子	小川あさみ	
【上三草】	中村忠史	中村善則	中村高男		【新 定】	藤原雅文	山口雅春	山本晴美 藤原美和
【 やの城野】	高橋和子	小林エマ			【吉 井】	岸本 官	岸本茂和 岸本俊郎	
【下三草】	大西安一	樹梨康子	真嶋 進		【小 沢】	廣田幸盛	小藪啓子	
【木 梨】	石井義春	大熊正明			【栄 枝】	大西祥子		
【藤 田】	大林英之	上山健一	石古義勝		【厚 利】	佐ノ瀬とし子	吉田真知子	
【山 口】	藤原良博	大原昭正	大原美保野		【松 沢】	藤原克弘	藤原秀直	
【馬 濱】	藤原良晃				【大 畑】	土肥勝彦	土肥美鈴	
【牧 野】	藤本嘉明	藤本昌司			【 蔦 】	戸田 裕		
【吉 馬】	高瀬和浩				【嬉野東】	福永ヨリ子	立岡高昭 森 富吉	

(敬称略)

人権エッセイ

同和問題つて何?

「同和問題つて何?」と、子や孫からの質問に私たち大人は、きちんと答えられるでしょうか。

今日では市民の多くの方が、

学校教育や社会教育の場で学習を重ねてこられました。しかし、なんとなく理解できただようで、分からぬ方が多いのでは…。

昭和40(1965)年8月11日に、国の同和対策審議会より、次のような答申が発表されました。

「何人にも保障されている市民的権利と自由が完全に保障されないという最も深刻にして、重大な社会問題である」と。

これをうけて昭和44(1969)年に「同和対策事業特別措置法」が、国会で可決成立しました。その結果、同和地区の経済的な低位性と、劣悪な生活環境は大きく改善されました。生活環境が差別を再生産するような状況は無くなつてしまりました。

先日、私は東映株式会社制作の「現

代社会と人権シリーズ「いま部落を語る若者たち」を見る機会がありました。映画に登場する若者たちは、等身大の自分を語り、活動を語り、悩みを語ります。

今までの同和教育では「部落」のマイナス面を強調することが多かったのではないか。しかし、映画に登場する若者たちは「部落」という属性を、性別や国籍などの属性と同じように普通に受け止め、自然に生きる若者たちが登場します。もちろん、人の命までを奪うような「部落差別」の現実は今もなお厳然と存在していますが。

これから同和問題解決に向けての取組は、地域の特性を生かして、町づくり地域づくりの中に位置づけることが大切ではないでしょうか。(兵庫県人権問題研究
アドバイザー 尾城文雄)

12月8日

人権と福祉の まちづくりフェスティバル

講師には、プロ車いすダンサーの奈佐誠司さんを招き、「ダンスで心のバリアフリーを!」というテーマで、ご講演いただきました。

車いすダンスのオープニングで始まり、車いすで困ることなどを会場のみなさんに問い合わせながら、体験談をお話されました。そして、会場の方に車いすダンス体験をしていただきました。

◆講演より

18歳の時バイクの事故にあり、車いすの生活になった。絶望して、病院で自殺を図ったが、一命を取りとめ、家族や友達の支えと、病室のベッドの隣の首から下が全く動かないけど元気で笑顔のお兄さんには励まされ、1年後に退院した。車いすで社会に出るとバリアがいっぱいあつた。困るのは、トイレと階段。差別や偏見といった人の目もつらかった。

そんな時に出会つたのが、海外では当たり前に行われているという車いすダンス。やりたかつたらやりとおしてバリアをなくしていくと頑張ってきて、少しづつバランスをしてくれる仲間が出来ました。



人権啓発作品展

市内の保育園（所）の園児が「市民一人ひとりの幸せが実感できるまちづくり」をテーマとした人権啓発作品を作成し、秋のフェスティバルや人権週間期間中のやしろショッピングパーク Bio で人権啓発展を行いました。子どもたちの心に育つ温かい心に触れる事が出来ました。



つながれ！みんなの心

「世界中の子どもたちが」の歌のように、
世界中のみんなが笑顔でつながりますように！
社保育園（5歳児）



ふくらめみんなのゆめ

気球のように、みんなの夢も大きく膨らんで、
夢に向かって少しずつ進んでいくといいね。
社保育園（4歳児）



みんなのわ

おおきなおおきなバルーン。みんなでちからを
あわせてキラキラボールをとばしたよ。
三草保育園（5歳児）



優しさの木を育てよう

異年齢児クラスのかかわりのなかで、
友達を思うあたたかい心に耳を傾けてみました。
米田保育園（4・5歳児）



力あわせてバルーン

運動会でバルーンをしました。
異年齢でバルーンを楽しんでいる姿です。
鴨川保育園（3・4・5歳児）



あつたがいね♥

てをつなぐといいかおになるよ。
ぼくのてときみのてをあわせるだけであたたかくなるよ。
椿山保育園（5歳児）



みんな森の仲間

一つ一つ、一人一人、ちがうけど
みんなが集まると、楽しい森になるんだよ。
東古瀬保育園（5歳児）



森の仲間で収穫祭!!

森の仲間は仲良しこよし。力を合わせて
ワッショイワッショイ!自然の恵みにありがとう。
正覚坊保育園（5歳児）



心一つにハーモニー

運動会で鼓隊演奏をしました。

みんなが心を合わせて、力いっぱい演奏しました。

泉保育園（5歳児）



みんながだいじだよ

さつまいものように、みんな見た目はちがっても、
それぞれ味があつていいんだよ。

たきの愛児園（5歳児）



ザリガニとともに

ザリガニの小さな命も 友達の命も
自分の命も たったひとつだけの大切な命だよ。
加茂保育所（5歳児）



ちからをあわせて！

運動会で取り組んだ 21 人のピラミッド。
一人ひとりの力の大切さを知り表現しました。
河高育児園（5歳児）



Rising Sun

仲間と一緒に手と手をとり合って
繋げよう心の絆 広げよう温かい陽の光
高岡育児園（4・5歳児）



たいせつななかま

七色の虹のようになかまが 1 つになって、
なかまを大切にできるように願っています。

秋津保育園（5歳児）



じぶん色、みんな色

ひとりひとりちがった色を持つ。そんなみんなが
集まれば、素敵な景色が見えてくる。

東条保育園（4歳児）



みんなでひとつ

力を合わせた組み体操。パズルと同じで 1 つでも、
1 人でも欠けてはいけない大切な仲間。

緑ヶ丘保育園（5歳児）

秋のフェスティバル

【滝野図書館】

11月3日(土)・4日(日)



ロビーで人権啓発展開催

加東市人権啓発展

【やしろショッピングパークBio】

12月4日(火)～19日(水)



多目的ホールで啓発展開催





『自分が今できること』

兵教大付属中学校
1年 福本 萌々子

ついこの間のことです。私は友達と自転車に乗って公園に行こうとしていました。その途中、私達の前に、50代ぐらいのおばさんが歩いていました。その人と私達には少し距離があったので向こうは私達に気づいていませんでした。その時です。そのおばさんが突然、もっていた缶を溝に投げ捨てたのです。私と友達はびっくりして顔を見合させました。なぜなら、見た目で判断するのはいけないのですが、そのおばさんがとてもきっちりした感じだったので、まさかそんなことをするとは思っていなかったからです。そのおばさんはその後、何事もなかったかのように歩いていったし、私たちも注意することはできませんでした。

その後私達は公園で遊びましたが、そのことが気になっていました。きっとそのおばさんには、「一本くらい…。」という気持ちがあったんだと思います。あの缶は今も溝におちたままなのだろうか。誰かが拾ってくれていなかったら、どうなってしまうのだろうか。そんな思いでいっぱいでした。

私は今まで、環境問題についてあまり深く考えたことがありませんでした。しかしこの時初めて考えました。よく考えてみると、私が知っている限りでは、地球温暖化、オゾン層の破壊、そしてゴミ問題でした。

そこで、私は少し、ゴミ問題について調べたいなと思いました。調べてみて、私はさらに驚きました。一番驚いたのは、私たち人間が捨てたゴミが海に行き、それを鳥などが飲みこんだりして命を落としていることです。ポイ捨ては、自然だけでなく、動物たちの命もうばっていることに気が付きました。もう一つは、ニュースで見たことです。近くの海岸ではバーベキューなどが禁止になったそ

です。その理由はバーベキューのあとのごみを持ち帰らない人がいるからです。このことも動物たちの命をうばう原因になっていると思います。私がこのことから気づいたのは、ポイ捨てなどのゴミ問題は、私たち一人一人の意識が変われば、減らすことができるのではないかということです。自分は、「一本くらい大丈夫だろう。」と思っていても、それを大勢の人がいろいろな場所で同時にやっているとすると、それはとても大きな問題になります。大切だと思ったのは、一人一人が「一本くらい…。」という気持ちをなくして、「私たちは一本でもポイ捨てをしてはいけないんだ。」という意識をもって、自分のまわりの環境などのことをよく考えて、何でもかんでも捨てずに分別したりしてゴミ箱に入れるということです。

今回この環境問題について考えてみて、今度からは自分もゴミなどの問題についてよく意識しようと思ったし、まわりの人にも注意できるようになりたいと思いました。そしてこれからも、自分たちが今いる環境をくずさないためにも、ゴミ問題について自分が今できることをやっていこうと思いました。



※中学生の作文は2月9日に開催した「人権を考える市民のつどい2013」で発表されました。



「愛の花」

東条中学校
2年 作山 亜美

皆さん、愛情とは一体どんなものだと思いませんか。私は、誰もが平等に与えられた両親からの初めてのプレゼントだと思います。しかし、現代の社会では幼い子どもを虐待する事件が年々増加し、ゆがんだ愛情が幼い子どもを痛めつける凶器となっているのです。

現在、虐待による死亡事例は年間で 50 件を超え、1 週間に一人のペースで子どもが命を落としています。その多くの原因が、実母に身体的虐待又は、ネグレクトと言われる保護の怠慢、養育放棄、拒否などです。

この事実を知って何よりも私が一番悲しかったのは、望まれて生まってきた尊い命の光が、実の母親によってその光を消されてしまったということです。その尊い命の中には、たくさんの大切なものが詰まっていたはずです。これから歩む未来への希望、無限大の可能性、そして今を懸命に生きようとする力。子どもの成長を応援するべき母親が、虐待という行為一つで子どもの未来を簡単に潰してしまうのです。子どもは、幼いながらに何を思うでしょうか。「お腹を痛めて自分を産んでくれた実の母親に虐待された。」という事実をまだ成長途中の小さな体で受け止める事はできるのでしょうか。私だったら、あまりのショックで簡単に心も体も破壊されてしまうだろうと思います。ただ自分の家族に愛情を求めただけの幼い子どもは、虐待という罪の重い行為を、トラウマという形で将来ずっと背負って生きていくのです。

児童虐待防止のために活動している市民団体があります。昨年の 11 月に行われた、児童虐待防止推進月間では、多くの方がオレンジリボンのポスターや垂幕を目についたのではないですか。オレンジリボン運動とは、子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動です。児童虐待防止全国ネットワークでは、オレンジリボン運動を通して子ども虐待の現状を伝え、多く

の方に子ども虐待の問題に関心を持ってもらい、虐待のない社会を築こうと目指しています。オレンジリボンを象徴するオレンジ色には、開かれた未来という意味があるそうです。未来とは、自分で切り開いていくものです。しかし、場合によっては、困難なこともあるでしょう。そんな時に、力を貸し、背中を押してくれる存在こそがオレンジリボンなのです。

私が幼い頃、母は毎晩絵本を読んでくれました。その頃の私は、夜は怖くて眠れませんでしたが、お母さんの声を聞くと安心でき、すぐに眠れました。あの頃、読んでもらっていた絵本を目にすると今でも思い出します。私がこうして今、成長できているのも両親の支えがあるからです。最近は、けんかばかりですが、困ったときには相談に乗ってくれ適確なアドバイスをしてくれます。嬉しいときには、一緒に喜んでくれます。そんな両親に私は心から感謝をしています。

私にはこんな誇れる両親がいますが、虐待を受けた子どもたちは、親の愛情というものを知らないのではないでしょうか。愛情を知らないということは、人に感謝する心さえ育たないということです。そうなれば、人との関わり方すら分からなくなり、きっと孤独になってしまいます。こういった子どもたちが増加すると日本の社会は大変なことになるでしょう。親から子どもへつながる愛情のバトンは、消えてしまいます。私は、日本の未来が愛の花でいっぱいの明るい社会になれば良いと考えます。

私の家の花壇には、色とりどりの季節の花がたくさん咲きます。花というのは生命力の強いものだと私は実感しました。一見、か弱そうに見える花ですが、土の下にはしっかりと根をはり、雨の日も風の日も明日のために咲き続けます。一つの種類でも、一つ一つ形や色が違い、どの花も輝いて見えます。親と子どもの絆だって同じです。それぞれの親子の形があり、愛情の形だって違います。ですが、何の罪もない幼い子どもを傷つける事だけは、何の関係もないことであり、絶対に間違っています。親の愛情を知らない子どもがこれ以上増えないためにも、一人ひとりがそれぞれの愛の花を咲かせ、意識を高めていくことが児童虐待防止のために私たちがしなければならないことなのではないでしょうか。この社会が色とりどりの愛の花でいっぱいになり、笑顔のあふれる未来が待っていることを私は、願います。



『一人の 人間として』

滝野中学校
2年 中西 美裕

「さすが女の子やな。」「やっぱり女の子や。」

ある時、困っているおばあさんを道で見かけたので、「どうしたんですか。」と声をかけました。すると、おばあさんは、「やっぱり女の子はいいねえ。女の子は何でもやってくれる。」と思いました。おばあさんはもちろん、声をかけてもらえた喜びもあったのでしょう。ほめてくれました。褒めてもらって私もとてもうれしくていい気分になりました。しかし、後で私の中に疑問点が残りました。「女の子だからじゃない。男の子だって、困っている人がいたら声をかける。もし、私が男だったらこのおばあさんはどう言っていたんだろう。」

ふと私の家庭を振り返ってみました。家事は全て母がやっています。朝早く起きて、朝ご飯を作り、弁当を作り、洗濯物を干したり、ゴミ出しをしたりと朝ご飯をゆっくりと食べることもなく、バタバタと仕事場へ行っています。そして、帰ってきたら、洗濯物を入れ、たたみ、夕食の準備、片付け、お風呂掃除にアイロンがけ、テレビを見る時間さえなければ、ゆっくりと身体を横にし、休むこともできません。12時過ぎによくベッドにつき、5時間ばかりの就寝時間が母の唯一身体を休める時です。私はそれに気づいていながら、「家事は、母がするもの。」と決めつけ、何も声かけ出来ずにテレビを見て笑っています。

私は二卵性双生児として産まれてきました。そのためなのか、いつも「二人で一人」として声をかけられます。確かに、これまで私自身も、もう一方の妹と同じ服などを身につけたい、一緒にいたいと強く思い、行動をしてきました。ところが一人がしたことに対して、常に二人が一緒にされるのです。毎日のように「あなたたちな・・・。」と怒られたり、褒められたりす

るので。この言葉にどれだけいやな思いをしてきたことでしょう。きっと双子にしかわかりません。だから、「双子やからって一緒にせんといでよ。」「それ私や。」と最近は言い返します。

つい最近もこのようなことがありました。私たち姉妹は、同じバスケットボール部に所属しています。バスケットの試合後によく両親から注意を受けるのですが、この日は褒められると確信していました。それは、私が勝負所で3ポイントシュートを決めたと思っていたからです。しかし、両親は「あの3ポイントはよかった。あれがあったからこそ後の展開やったな。」と別の3ポイントシュートを決めた双子のもう一方の妹を褒めたのです。両親の中では、いつもスポーツで失敗するのは私であり、活躍するのは妹という思い込みがあるからでしょうか。また、一人が荷物をほったらかしにしていると、あるいは風呂にも入らずテレビを観ていると、また、食べた後、片づけていなければ・・・など一人がした行いに「あんたらな・・・。」と二人一緒にされて怒られることがあります。親の一言で、私たち双子は決まって喧嘩になります。

このように、私自身を認めもらえないしさや寂しさ、認めてもらえた時の喜びを14年間感じてきました。だからこそ私は、一人の人間として、男性であろうと女性であろうと、だれに対しても声をかけ、思いやりと優しさを行動に移していきたいです。なぜなら、一人の人間として生き、一人の人間として見ていくことが、お互いを認め、向上していくことにもつながると思うからです。一人一人の人間を大切にできる世の中になることを願って、まず私自身が行動していきたいと思います。





『家族をつなぐ』

社中学校
3年 河村 佳歩

「おーい、おーい。」

帰宅寸前。遠くのほうから聞き覚えのある声がする。目を移すと、じーちゃんが倉庫の前の椅子に座って手招きしている。

「はあ。」「また何や。」

思わずため息。わたしは自転車を止め、荷物を下ろし、急いでじーちゃんのところへ行く。じーちゃんは、

「部屋の電球を換えてくれ。」

と私に言った。

「わかった～。」

と言いながらも、心の中では、

「そんなん自分で出来るやろ、とつてつけるだけの作業やんけ。」

とつい思ってしまう私。

じーちゃんは私の家の少し離れた一軒家に一人で住んでいる。でも、ご飯のときは、私の家で、みんなで食べる。つまり、普段は私と姉と父と母の4人で住んでいる家が、朝の7時頃、昼の12時頃、晩の7時頃はじーちゃんが加わった5人家族になるということだ。

じーちゃんの家に行くと、廊下の電球と洗面所の電球が切れていた。私は言われたとおり、脚立にのぼって、電球を取り付ける作業にとりかかった。その間、じーちゃんはずっと私を見ていた。電球が熱くて思わず、「熱っ！」

と声をあげたら、じーちゃんはすぐに軍手を取りってくれた。嬉しかった。

作業が終わって脚立を片づけていると、じーちゃんが、

「おおきにな。」

と言ってくれた。

その時私は、「めんどくさい」と思った自分が小さく思えた。じーちゃんは帰り際にも、何度も、

「おおきにな。」「ありがとな。」

と言ってくれた。とても嬉しかった。して良かったと思った。

ある日の夜。じーちゃんが晩ご飯を食べ、家に帰った後、父と母が言った。

「じーちゃんは佳歩が生きがいなんやで。」

「じーちゃんほんまは寂しいねんで。」

私は表現しようのない不思議で複雑な気持ちになった。

思い返すと、私は姉以上のおじいちゃん子だったと思う。保育園の送迎は毎日じーちゃん、お小遣いをもらうのもいつもじーちゃん、自分が欲しい物はほとんどじーちゃんに買ってもらっていた。

「メシ食いに行こか。」

と言われれば、喜んで私はじーちゃんの車に飛び乗っていた。それなのに、中学校に入ってからは、じーちゃんと出かける事がほとんどなくなった。会話も結構減った。中学生になって忙しくなったのもあるけれど、それ以上に自分から微妙に距離を置こうとしていることにやっと気づいた。

心のどこかでじーちゃんを家族の一員として扱っていなかったのかもしれない。

じーちゃんは気づいていなくても私は最悪なことをしていたのかもしれない。

私の心の中は罪悪感でいっぱいになった。それから私は家族の一員として、「自分の役割って何なんやろ。」と考えてみた。考えついたのは、「家族をつなぐ自分になること。」

じーちゃんの寂しさが分かった分、私は強く思った。

「足が悪いじーちゃんのリハビリに付き合ってあげたい。」

「もっとじーちゃんと話したい。」

「もっとじーちゃんのためにしてあげられることをしてあげたい。」と思った。

それからはじーちゃんと過ごす時間が増えた。時間があるときは一緒にご飯を食べるようになった。

この秋、稻刈りを手伝った。父と稻刈りをしている間、やっぱりじーちゃんはひと目もそらさず私を見ていた。前よりもずっと嬉しそうだった。

平成25年度

地区住民学習 推奨ビデオ

「ほんとの空」DVD (36分)

多くの人権課題に共通する根っここの部分は、私たちの誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」です。自分や身近な人に関わる出来事には敏感に反応するが、それ以外には他人事に感じてしまう。



新規購入 図書の紹介

まちづくりの拠点として
イギリスに起源を持つ「セルトルメント」から発展し、社会福祉活動を牽引してきた隣保館の歴史、変遷、改革等を踏まえ、まちづくり

の拠点としての事業展開を提示する。



「自力自闘の 解放運動の軌跡」 ～被差別部落に

生まれ育ち闘つ～ 生まれ育ち闘つ～

高知の被差別部落に生まれた著者が、部落差別・女性差別と闘い、すべての人が暮らしやすい世の中を築くため福祉運動など多様な運動を展開した88年の自力闘の人生をつづる。



「河原の者・非人・秀吉」 解説運動の軌跡

・差別に堪えながらも社会の重要な役割を担い、誇りを持って生きてきた人々
・中世の被賤視民を対象と
して差別の歴史を叙述

・非人の世界に身を置きながら閑白にまで昇りつめた秀吉
・秀頼は秀吉の実の子ではない?

師へ伝えた、「子ども観」「子どもをどう見るか」のメッセージ。



「水平社宣言の熱と光」 ～解説への光を

大正十一（1922）年、京都岡崎公会堂での「全国水平社創立大会」において高らかに宣言されてから、本年で91年が経とうとしている。水平社宣言誕生の背景と歴史的意義を多角的に考究する。



「子どもを見る眼」 ～先生たちへの応援歌～

「困った子」など。「困っている子」と思えないか。
ベテラン世代から若い教



「松原三中から始まる物語」 ～解放への光を

人権教育の先進校といわれる大阪・松原三中。越境が日常化し、「寝た子を起こすな」と反対されながら地域と一緒に進めた解放教育の実践が聞き取りからまとめられている。



ビデオ・図書は貸出します。お申し込みは、人権教育課まで。
TEL 48-3598

ひとりで悩まずに相談してください。

差別、いじめ、嫌がらせ等人権に関する問題でお困りの場合は、人権相談をご利用ください。相談は無料です。秘密は守ります。（受付時間：平日午前8時30分から午後5時15分まで）

•人権に関する相談 ☎ 48-3598 (加東市教育委員会人権教育課)

•常設人権相談所 (みんなの人権 110番) ☎ 0570-003-110 ※最寄りの法務局につながります。

•子どもの人権 110番 ☎ 0120-007-110

•女性の人権ホットライン (全国共通ナビダイヤル) ☎ 0570-070-810

発行

加東市人権・同和教育研究協議会

〒679-0292
兵庫県加東市下滝野1269-1 (滝野庄舎)
TEL 0795-48-3598
FAX 0795-48-3705